

平成26年度 南魚沼郡市音楽部 活動報告

部長 種村啓子

【研究主題と研究の概要】

当部会は、研究主題を「思いや意図をもって音楽表現する子どもの育成」とし、授業研究会や実技研修会を通して互いに学び合い高め合うことで、その具現に努めています。

今年度は、南魚沼市塩沢在住の豊田春美先生を講師にお迎えし、小学校中学校合同で、箏と三味線の実技研修を行いました。



【研究の実際】

「実際に楽器にふれてみて、まず、教える私たちが楽しみましょう」という研修案内に、小中学校教員合わせて40名近くの参加がありました。

まず、講師である豊田先生が、「日本音楽について」と題してご講話くださいました。

音楽博士の吉川英史氏の言葉を引用しながら、次のような内容でお話くださいました。

- 小中学校の音楽教育においては多種多様な音楽に対する理解を養うことが重要であり日本音楽には洋楽にはない芸術的価値がある。
- 日本音楽の特色を分らせるためには、テンポの変化、リズムの特色、旋律や五音階に耳慣れることが大切である。

次に、箏の伝来や箏の各部の名称とそのしくみについて教えていただきました。先生は、学校に講師として招かれる機会も多く、「児童・生徒には、まず楽器を観察させて楽器の形を書かせる」というお話をされました。よく観察することで楽器についての理解が深まり演奏意欲が高まるとのことでした。弦名、箏の調子、調弦の仕方などについて詳しく教えていただき、「越天楽今様」「ほたるこい」「うさぎ」「さくらさくら」「ずいずいずっころばし」など、簡単な曲からやや難しい曲まで、楽しみながら練習しました。

合わせて三味線の演奏体験も行いました。勘所（ツボ）、ばちの使い方など、技術的に難しく、三味線らしい音色を響かせるまでには至りませんでした、「触れて楽しむ」という目的は達成しました。

最後に、箏と三味線の簡単な合奏曲を演奏し、日本音楽固有の響きを楽しむことができました。



【成果】

「日本楽器には普段触れることがなく、とてもいい機会になった。」という感想がたくさん届きました。

中学校には箏や三味線を備えているところもあり、希望有れば借用できるという明るい見通しももつことができました。

まずは楽器に触れてみて、教師も子どもと一緒に日本音楽を楽しむことから始めたいと思います。

